

京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）表彰式



3月4日（月）、京都大学国際科学イノベーション棟5階シンポジウムホールにて京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）の表彰式が行われました。たちばな賞は、優れた研究成果を挙げた本学の若手女性研究者を顕彰することによって研究意欲を高め、我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者を育成することを目的として創設され、今回で第11回目となります。

佐藤 亨男女共同参画推進本部支援室長の司会進行で、はじめに、男女共同参画推進センター長の稲葉 カヨ理事・副学長より開会の挨拶がありました。

次に、山極 壽一総長よりたちばな賞 学生部門受賞者の藤森 詩織氏（理学研究科 博士（後期）課程3年）、研究者部門受賞者の西本 希呼氏（人間・環境学研究科 特定研究員）へ表彰状と記念楯が授与され、株式会

社ワコール伊東 知康代表取締役社長より副賞の「ワコール賞」が授与されました。続いて、優秀女性研究者奨励賞 学生部門受賞者の齋藤 美保氏（理学研究科 博士（後期）課程3年）、木邑真理子氏（理学研究科 博士（後期）課程2年）へ山極総長より表彰状が、伊東社長より副賞が授与されました。続いて、山極総長、伊東社長が受賞者へ祝辞を述べられました。

その後、たちばな賞学生部門受賞者の藤森氏、研究者部門受賞者の西本氏による研究発表が行われました。

最後に、川添 信介理事・副学長より閉会の挨拶があり、表彰式及び研究発表会は盛会のうちに終了しました。



たちばな賞 優秀女性研究者奨励賞 受賞者 たちばな賞（優秀女性研究者賞）

部門	氏名	所属・身分	研究テーマ
学生部門	藤森 詩織	理学研究科 博士（後期）課程3年	高周期 14 族元素を骨格に含むフェニルアニオン種の合成とその性質解明
研究者部門	西本 希呼	人間・環境学研究科 特定研究員	〈茨の国〉の言語 — マダガスカル南部タンレイ語の記述

優秀女性研究者奨励賞

部門	氏名	所属・身分	研究テーマ
学生部門	齋藤 美保	理学研究科 博士（後期）課程3年	タンザニア・カタヴィ国立公園に生息するマサイキリンの仔育て戦略に関する研究
学生部門	木邑 真理子	理学研究科 博士（後期）課程2年	多波長観測で探る、ブラックホール周囲の降着円盤を介した質量降着機構の解明

“Women and the World” フォーラム5 〈ランチミーティング〉 総長と語る！研究者のワーク・ライフ・バランス

3月4日（月）、国際科学イノベーション棟会議室 5a・5bにて“Women and the World”フォーラム5「総長と語る！研究者のワーク・ライフ・バランス」を開催しました。

参加者の自己紹介後、女性教員懇話会代表の法学研究科 齊藤 真紀教授より挨拶があり、京都市の保育所入所手続きにおける大学院生のポイントの改善やおむかえ保育サービスの利便性の向上などについて報告がありました。その後、懇話会から「研究者のワーク・ライフ・バ

ランス」、「研究コミュニティにおける女性研究者の立ち位置」の2つのテーマについて投げかけがあり、各自が直面している課題や対処法について、参加者がそれぞれの立場から、総長や稲葉 カヨ理事・副学長と活発な意見交換をしました。

1時間20分の短時間ではありましたが、分野を超えた情報共有ができた充実したミーティングとなりました。多くの方にご参加いただきありがとうございました。



Topic 1 研究集会の託児所開設 ③様々なとりくみとまとめ

前回で紹介した ASAFAS での支援体制は大変進んでいます。託児室利用を目的とした部屋を持っていない部局が大多数でしょう。その場合、研究集会の託児室を開設するにはどうしたらいいでしょうか。乳幼児が室内でくつろいで一定の時間過ごせるためには、畳敷きの部屋など靴を脱いで動き回れるスペースが要りますよね。宿泊施設を備えた会場で開催される場合、託児室に適した部屋を借りられる場合もありますが、学内の一般の建物で行う場合は、適した部屋がないと思うかも知れません。

しかし実績のある託児業者によると、通常のセミナー室や会議室のような設備の整っていない部屋でも、机を移動して床マットやホットカーペット等を持ち込むことにより託児室として利用した経験がたくさんあるそうです。本学でも、学内の宿泊施設を持つ会場、セミナー室や女性休養室などを利用して託児室を設置した実績があるようです。何かあったときに、保護者がすぐに駆けつけられる範囲に託児室があるのが望ましいですから、研究集会の会場と同じかほど近い建物の中に託児室を設置できるよう、是非とも部局にご協力いただきたいところです。

また、セミナー室や会議室を託児室として利用できるかどうかは契約に当たって託児業者が個別に判断することになりますし、また必要な物品のレンタルは予算に関わりますので、託児業者と十分に打ち合わせおきましょう。なお、こうした事例が増えてくれば、部局の備品として床マット等を用意しておくなど、部局としての取り組みを充実させる方向性が見えてくるのではないのでしょうか。

託児室の設置に際して、事故に備えた保険が必要ですが、主催者や利用者ではなく託児業者が加入していることが一般的です。託児業者の選定に際しては保険についてよく確認しておきましょう。他に気を付けることとして、会議・イベント時の託児室開設についてノウハウをまとめた東京大学のウェブサイトもあります（脚注1）。

奈良女子大学（脚注2）では、保育士資格を持たないボランティアや学生が様々な講義を受講し面談を受けてサポーターとして登録されています。シッター料金がかなり抑えられており、直前でもキャンセル料不要など融通が効くきめ細かなサービスを大学が提供しています。託児業者を利用するのは安心である反面、費用が高張るため、ある程度の予算規模がないと対応できない問題があります。託児室を利用するのが1名程度の場合は、利用者側がそれでよいと納得すれば、プロではなく主催者側の人員を割いて対応しているケースも多々あると思います（この場合は、託児室の安全確保について主催者側が十分な知識を持っておく必要があります）。

本WGでも、学内での託児室設置の実績や障壁について情報を集めています。設置を検討したけれども断念したご経験などの情報も是非お寄せください。

託児室併設はこれからますます増えていくでしょう。今よりもっと「当たり前」で「簡単」になっていくことを期待しています。

（文責 育児・介護支援事業WG、専用アドレス：ikwg@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp）

脚注1）<http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/resources/childcare/event.html>（東京大学）

脚注2）<http://gepo.nara-wu.ac.jp/childcare-support/event-childcare-system/>（奈良女子大学）

懇話会セミナー

2月14日（木）12時30分から京都大学吉田泉殿にて、女性教員懇話会主催のセミナーが行われました。医学研究科の木下 彩栄教授より「認知症の病態と予防から近未来の治療まで」と題して講演がありました。

木下先生は、認知症の問題、アルツハイマー病の症状や原因、さらにアルツハイマー病の気付きのヒント等について話しました。また、生活や睡眠との関係について「運動や本を読んで言語能力を高めること、地中海食・

大豆・ビタミンCの摂取や良質な睡眠をとることが認知症リスクを下げる。」と予防する方法について述べました。講演後は質疑応答があり、大いに盛り上がりました。



懇話会セミナー開催のお知らせ

日時 2019年5月31日（金）12時15分～14時頃（入退室自由、ランチ持参歓迎）
（冒頭の30分程度は、子育て交流室見学の予定。下記※参照。）

場所 本部キャンパス総合研究2号棟2階 法科第四演習室

講師 浅井 歩氏（理学研究科附属天文台准教授）

演題 「最新の天体画像で解き明かす宇宙と太陽のひみつ」

京都大学の関係者ならどなたでも参加可能です。

※セミナーの冒頭、前回のたちばなのコラム「みんなどうしている？」で取り上げられたアジア・アフリカ地域研究研究科（ASAFAS）の子育て交流室の見学を予定しております（上記の会場から、ご案内いたします）。こちらのみのご参加も大歓迎です。

参加申込み・お問い合わせ：

中村（アジア・アフリカ地域研究研究科 nakamura@asafas.kyoto-u.ac.jp）または懇話会事務局（female.jimgroup@gmail.com）まで。

女性教員懇話会は、本学における女性研究者相互の親睦・交流等を目的として、1981年に設立された団体です。

連載：研究者になる！－第11回－

経営管理研究部・教授 アスリ チョルパン
(Asli Colpan)

●勉強が好きだったから来日の機会に繋がった

「勉強をなさい！」。親御さんにそう注意された経験のある方は多いのではないのでしょうか。私の場合はその真逆で、子どもの頃は家に帰って宿題をするのが一番の楽しみ。時には「何時まで勉強しているの！」と怒られるような、珍しいタイプの間人でした。中でも得意だった科目は、数学、化学、物理学です。ロジカルに考えれば答えを導き出せるところに面白く没頭しました。

その志向は成長しても変わらず、大学では繊維工学を選びました。工学の中でもなぜ繊維？と聞かれると、当時は人気分野でしたし、また今から考えると恥ずかしいのですが、好きだった子の希望進路だった、というのが理由の一つでした（笑）。きっかけは不真面目でしたが、入学してからは真面目に勉強を頑張りました。そのおかげで、成績優秀者だけが選ばれる、日本の繊維工学関連企業へのインターンメンバーになることができました。

実は、これが私にとって最初の海外体験でした。一定期間過ごしてみると、電車は時間通りに来るし、やるならやる、やらないならやらないとはっきりしている。ある意味完璧なシステムが出来上がっている社会で、完璧を求める私の性格によく合っていると思いました。その後、一度はインターン先の企業に就職することを希望したのですが、働くなら日本語ができないとダメと言われ……。まだ勉強したい気持ちもあったので、奨学金を申請して学校に通い、もう一度日本に帰ってくることを決意しました。そしてリーズ大学の修士課程、京都工芸繊維大学の博士課程に進むことを決めました。

●自分で掴んだ経営学の道。常に論文の先を見据えて

経営学を勉強し始めたのはリーズ大学にいた頃です。私がいた工学のクラスは学生数が少なく、そのうえ授業内容はすでに知っていることが多かったので、若干物足りなさを感じていました。そんな中、もっと新しいことを学びたいと思っていた矢先に、経営学と出会いました。経営学のクラスは学生の数も多く、みんなが競い合って勉強していた環境も肌に合って、途中からはすっかり経営学の虜になりました。どちらの大学も奨学金は工学で申請していたのですが、リーズ大学の時は熱意で

認めてもらい、京都工芸繊維大学の時は、学内に経営学の研究科がなかったため、工学研究科に所属しながら京都大学の特別研究員になる。という形にたどり着きました。

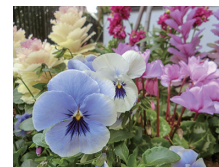
現在、研究しているテーマは、「多角化したビジネス・グループの持続性：理論的および実証的考察」。簡単にいうと、企業戦略と企業統治です。多角化するビジネス・グループ—例えば自動車を造ると同時に、ファイナンスや化粧品の分野も手がけている企業が、どういう成長の仕方をしたのか。なぜそれほどまでに多角化したのか。ということ、企業史から考察したり、企業統治のあり方がその会社の業績とどう結びついているのかなどを、計量経済学的手法を用いて分析したりしています。

経営学というのは、企業活動全般を研究する学問です。その性質的に論文を出して終わりというわけにはいかず、企業に行って発表したり、社外役員として結果を出したりするなど、何らかの形で企業に影響を及ぼすところまでが一連のプロセスなのだと考えています。また、私は海外のビジネス・グループを中心に研究しているので、国際的なトップ雑誌などで成果を発表することも、常に心がけている姿勢の一つです。出版した書籍がハーバードビジネススクールから認められて2016年から1年間、客員教授として迎え入れられたことは、とても嬉しかったです。

社会の問題なのか、女性の考え方によるものかはわかりませんが、日本は女性研究者が少ないと感じています。私自身が今そうなのですが、働きながら子育てをするというのは確かに大変です。しかし、高等教育で女性が自分の役割を持つこともまた、大切なことだと思います。

編集後記

長いGWもあっという間に終了しました。花粉症の方は、やっとマスクがとれる…とホッとした気持ちでしょうか。季節の花たちが満開になり、センターの庭もどんどん明るくなってきました。是非、お立ち寄りください。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町
電話 075 (753) 2437
FAX 075 (753) 2436
E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
HP http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/